

通し番号	3823
------	------

分類番号	13・51・21・02
------	-------------

(成果情報名) 新飼料給与診断ソフトの開発	
<p>[要約]</p> <p>ソフトは、市販の表計算ソフトExcel2000を用い、黒毛和種及びF1牛を対象とした繁殖雄(150kg未満の育成牛を含む)、肥育雌、肥育去勢、F1肥育の各給与計算シート及び自家配合計算並びに標準発育値を参照できる構成とした。</p>	
(実施機関・部名) 畜産研究所・企画経営部	連絡先 046-238-4056

[背景・ねらい]

肉牛においては、2000年に日本飼料標準が改訂されたので、より実情に対応するため、これに対応した飼料給与診断ソフトを作成し、農家指導の一助とする。

[成果の内容・特徴]

- 1 ソフトは、625KB以上のメモリーサイズが必要であることから、ハードディスクに登録して利用するとトラブルが少ない。
- 2 繁殖雌シート上にだけ、入力した数値を消去するマクロを記入したが、マクロ機能を利用しない場合は、これを削除するとよい。
- 3 体重が350kg以下の育成牛の給与診断は、繁殖雌のシートに同居してあるが、母牛の哺乳量と育成牛の哺乳量は連動していないので、子牛の発育状態を考慮しながら、その量を決める必要がある。なお、計算上の哺乳量は、育成牛枠の直下に記載した。
- 4 肥育牛の計算は、体重が基本となっているが、農家の庭先では体高等の実測値をもとに推定体重を用いることが多いので、黒毛和種については、月齢又は体高を入力することで、標準発育値のどの段階に到達しているかを検索する発育値シートを設けた。

[成果の活用面・留意点]

- 1 今後は、改訂版の標準飼料成分表の数値を組み込み、牛の条件を一定にした場合の組み合わせる飼料を変更して、一覧表示が可能な計算ソフトの開発が必要である。

